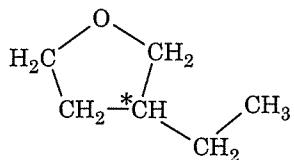
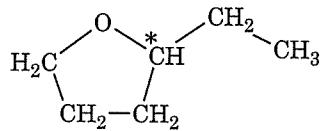


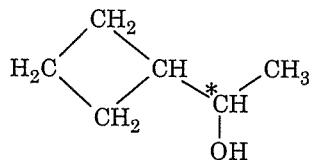
第1問

I

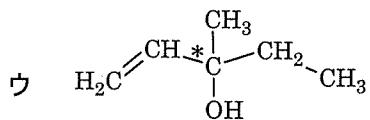
ア



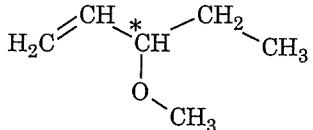
イ



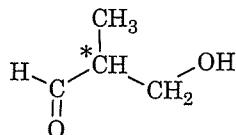
ウ



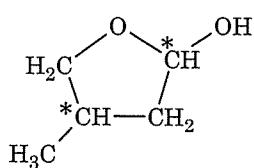
エ



オ G



H

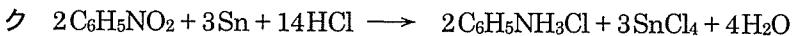


カ

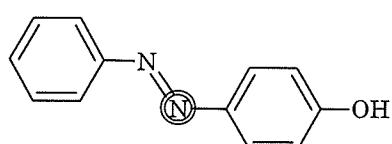
a ヒドロキシ b 水素 c 困難になって

II

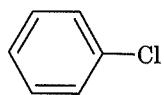
キ 同位体



ケ L



M

コ  $^{15}\text{N} : ^{14}\text{N} = 12 : 13$ サ 下線部⑥で用いた化合物Jに比べて、下線部⑦のJは、ジアゾニウムイオンからN<sub>2</sub>が解離する反応の逆反応によって<sup>14</sup>N<sub>2</sub>ガスを取り込むことで<sup>14</sup>Nの割合が大きくなっているから。

第2問

I

- ア  $6.6 \times 10^5$  L  
イ  $3.6 \times 10^5$  Pa  
ウ (4)

エ 平衡状態における分圧は、  $H_2 : 2.00 \times 10^5$  Pa  $Ar : 2.20 \times 10^6 - 2.00 \times 10^5 = 2.00 \times 10^6$  (Pa)  
気体の物質量比=分圧比から、気体の水素の物質量は、

$$1.20 \times \frac{2.00 \times 10^5}{2.00 \times 10^6} = 0.120(\text{mol})$$

吸収された水素の物質量は、  $1.50 - 0.120 = 1.38(\text{mol})$

答 1.4 mol

オ  $4.0 \times 10$ 

カ ヨウ化水素が 2.00mol 生じたときの水素、ヨウ素の物質量は、

$$H_2 \quad 1.50 - 2.00 \times \frac{1}{2} = 0.50(\text{mol}) \quad I_2 \quad 1.20 - 2.00 \times \frac{1}{2} = 0.20(\text{mol})$$

吸収が始まったときの水素の分圧が  $2.00 \times 10^5$  Pa であることから、全圧は、

$$2.00 \times 10^5 \times \frac{0.50 + 0.20 + 2.00}{0.50} = 1.08 \times 10^6(\text{Pa})$$

答  $1.1 \times 10^6$  Pa

キ 平衡状態でのヨウ素の分圧を  $x$  Pa、ヨウ化水素の分圧を  $y$  Pa とする。  
全圧から、  $2.00 \times 10^5 + x + y = 2.20 \times 10^6 \quad x + y = 2.00 \times 10^6$  (Pa)

$$\text{圧平衡定数から, } K_p = \frac{y^2}{2.00 \times 10^5 \times x} = 40 \quad \frac{y^2}{x} = 8.00 \times 10^6$$

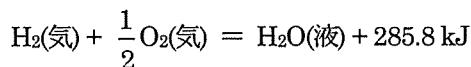
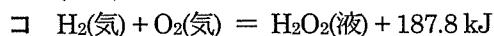
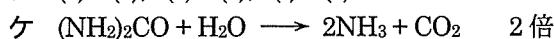
以上から、  $y^2 + 8.00 \times 10^6 y - 16.00 \times 10^{12} = 0$

$$y > 0 \text{ より, } y = \frac{-8.00 \times 10^6 + \sqrt{128 \times 10^{12}}}{2} = 1.64 \times 10^6(\text{Pa})$$

答  $1.6 \times 10^6$  Pa

II

ク (a)-(6), (b)-(7), (c)-(5)

9.8 × 10 kJ ( $\text{H}_2\text{O}_2(\text{液})$  1molあたり)

サ カタラーゼが存在しないときの反応速度定数を  $k_1$ , 活性化エネルギーを  $E_{a1}$  とし, カタラーゼが存在するときの反応速度定数を  $k_2$ , 活性化エネルギーを  $E_{a2}$  とする。式4より,

$$\log_{10} k_2 - \log_{10} k_1 = \frac{E_{a1}}{2.30RT} - \frac{E_{a2}}{2.30RT} \quad \log_{10} \frac{k_2}{k_1} = \frac{E_{a1} - E_{a2}}{2.30RT}$$

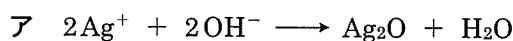
$$\frac{k_2}{k_1} = 10^{12} \text{ から, } 12 = \frac{75.3 \times 10^3 - E_{a2}}{2.30 \times 8.31 \times 300} \quad E_{a2} = 6.49 \times 10^3 (\text{J/mol})$$

答 6.5 kJ/mol

シ  d …指数,  e …減少

## 第3問

I



イ (3), (4)

ウ 当量点における液量は( $20.0 + 16.0 =$ ) $36.0\text{ mL}$ であり,  $\text{CrO}_4^{2-}$ の濃度は,

$$[\text{CrO}_4^{2-}] = 1.0 \times 10^{-4} \times \frac{20.0}{36.0} = \frac{1}{1.8} \times 10^{-4}(\text{mol/L})$$

$\text{Ag}^+$ の濃度は,  $\text{Ag}_2\text{CrO}_4$ の溶解度積を用いて,

$$[\text{Ag}^+] = \sqrt{\frac{K_{sp2}}{[\text{CrO}_4^{2-}]}} = \sqrt{\frac{1.2 \times 10^{-12}}{\frac{1}{1.8} \times 10^{-4}}} = 1.47 \times 10^{-4}(\text{mol/L})$$

$\text{Ag}^+$ の物質量は,

$$1.47 \times 10^{-4} \times \frac{36.0}{1000} = 5.29 \times 10^{-6}(\text{mol})$$

(答)  $5.3 \times 10^{-6}\text{ mol}$

エ 当量点において存在する  $\text{AgCl}$  の沈殿の物質量について,

$$x \times \frac{20.0}{1000} = 1.0 \times 10^{-3} \times \frac{16.0}{1000} - 5.29 \times 10^{-6}$$

よって,

$$x = 5.35 \times 10^{-4}$$

(答)  $5.4 \times 10^{-4}$

オ 当量点における  $\text{Cl}^-$  の濃度は,  $\text{AgCl}$  の溶解度積を用いて,

$$[\text{Cl}^-] = \frac{K_{sp1}}{[\text{Ag}^+]} = \frac{1.6 \times 10^{-10}}{1.47 \times 10^{-4}} = 1.08 \times 10^{-6}(\text{mol/L})$$

$\text{Cl}^-$ の物質量は,

$$1.08 \times 10^{-6} \times \frac{36.0}{1000} = 3.88 \times 10^{-8}(\text{mol})$$

(答)  $3.9 \times 10^{-8}\text{ mol}$

II

力 21L

キ  $d_{AA} = \sqrt{2}l - 2r_A$  ,  $d_{BB} = l - 2r_B$  ,  $d_{BB}$ の方が小さい

ク 原子AがFeで原子BがTiの場合,  $d_{BB} = 0.02\text{ nm}$ となり, 水素原子の直径 $0.06\text{ nm}$ より小さいが, 原子AがTiで原子BがFeの場合,  $d_{BB} = 0.06\text{ nm}$ となり, 水素原子の直径 $0.06\text{ nm}$ と等しいから。

ケ 3倍

コ 吸収される水素原子の数: 18       $H_2$ を吸収した La-Ni 合金の体積: 8.7L